

2024年度 自己点検・自己評価結果

本校では、定期的に教育活動および学校運営の評価を行っています。
評価は7領域31項目からなり、4点満点の評価を行っています。

評価の概要

カテゴリー	評価点	概要
I. 学校運営	3.33	年単位の組織目標から個々に目標を設定し、中間評価を実施して後期にかかっている。組織全体では年度末に評価を行い、その振り返りを翌年度の目標設定につなげている。今後は長期・中期・年度目標を設定すると共に評価を行い、目標と進捗状況の確認と共通認識ができる機会を設けていく。職員会議・教務会議を定期的に開催し重要事項の検討及び共通認識の場としている。また必要に応じ臨時委員会を組織したり、係担当の各々がリーダーシップをとり、教職員全体が協力的に行動しあって連携を図れている。
II. 教育理念・目標・教育課程・教育活動	4.00	教育理念・目的・目標は一貫性があり、社会情勢や時代の要請に応える教育内容となるよう、適宜検討会を開催し見直しを行っている。初回授業で、シラバスを用いて科目目標と評価方法の説明を行っている。教育内容においては学生の反応を捉え学生のレベルに応じた内容となるよう工夫し、学習者参加型の授業形態を増やしている。また成績不振者には単位取得に向け、個別に学習支援を行っている。研究授業等により教育実践力の向上を図っている。実習指導者と教員の連携は密にとれており、教育目標達成に向けた人的・物的環境を整備している。
III. 就職・卒業	3.67	教員が各領域の担当となって国家試験対策を行っており、高い看護師国家試験合格者を維持している。母体病院協力のもと実施している先輩看護師との座談会は大変好評であり、看護師としての将来像育成につながっている。卒業生に対してホームカミングデイを行い、ピアサポートやメンタルサポートにつなげる機会を設けている。また学内施設設備の使用を許可し、卒業後も一人で悩みを抱えないよう、いつでも相談できる場として継続的な支援をしている。
IV. 学生生活支援	4.00	学生生活がスムーズに送れるよう、様々な面で学生生活を支援している。健康管理等による身体的側面からの支援だけでなく、担任制による細やかな関わりや臨床心理士によるスクールカウンセリング等による、精神的側面からの学業支援、並びに授業料分納制度や母体病院からの奨学金制度等による、経済的側面からも学業支援を行っている。学生自ら感染防止対策行動がとれるよう、ワクチンガイドラインに沿った指導を行うなど健康管理教育に力を入れている。
V. 経営・管理・財政	3.75	年間計画に基づき計画的に予算・事業が執行され、組織的な経費の節減対策を検討している。授業料滞納者に対しては、分納制度や個別の対応を今後も継続して行っていく。年1回消防署を招いた防災訓練、さらに月1回教職員による火災や地震を想定した防災訓練を行っている。訓練の成果をマニュアルに反映させ、より現実的な危機管理体制の構築に努めている。学生用食料・飲料水の備蓄については、防災訓練の機会に確認している。
VI. 教育環境	3.80	保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定められた備品・設備は整備され、定期的に点検し補充している。今後も計画的に予算を確保し、最新の教育機器の導入を図り、学習環境の整備に努めていく。インターネット、PC環境については今後のICTを活用した教育を見据え、Wi-Fi環境の整備等について検討していく。学生自治会の設置はないが、学生間交流を教科外活動に位置づけ、異学年の交流の場を意図的に設置している。
VII. 広報・地域との連携	3.50	病院・学校ホームページを一新し、学校行事やオープンスクールの日程などを随時更新している。学校紹介や母体病院広報誌へ学校情報の掲載等の広報活動を継続していく。オープンスクールは多くの人が参加しやすいよう平日・土曜・日曜にも開催した。また、高等学校の進路相談会にも積極的に出席している。ボランティア活動の案内を行っているが、学校としての活動参加までは実施できていない。今後、地域に根差した学校としての存在感をアピールしていく。看護職の再就職支援に向けた研修を年4回実施している。

